

連載

# マイナ保険証の「失態」を追う

～このまま見過すことはできません～

## 第3回 急増しそうな「偽造マイナンバーカード」の悪用に気をつけよう！



経済ジャーナリスト  
荻原 博子



profile

荻原 博子(おぎわら・ひろこ) / 経済ジャーナリスト。家計に根ざした視点で経済を語る。バブル崩壊直後からデフレの長期化を予想し、現金に徹した資産防衛、家計運営を提唱し続けている。新聞・経済誌などに連載。新聞、雑誌等の連載やテレビのコメンテーターとしても活躍中。近書に「マイナ保険証の罠」(文春新書)、「マイナンバーカードの大問題」(宝島社新書)など。



本連載をWebでチェック

経済ジャーナリスト・荻原博子さんによる連載「マイナ保険証の失態を追う」このまま見過すことはできません。運用開始以降、トラブルが相次ぐマイナ保険証をテーマに、経済分野の専門家の視点からマイナンバーカード問題の根幹にあるものや、その行く末について執筆した。今回は3回目。

### 偽造マイナンバーカードを使った犯罪が増えています。

大阪府八尾市の松田のりゆき市議が、偽造マイナンバーカードで自分のスマホを乗っ取られ、25万円のロレックスの高級時計を不正購入されました。

外出中に、突然携帯電話の電波が使えなくなり、おかしいと思って携帯ショップに問い合わせると、「この電話は、名古屋市内の店舗で機種変更されています」と言われたのです。

乗っ取られた携帯にはPayPayやクレジットカードが紐づいていたので、すぐさま利用を停止しました。

ところが、犯人はすでにPayPayなどで10万円以上を不正利用していたほか、ショッピングサイトのIDやパスワードを悪用し、クレジットカードが不要のローンを購入して、なんと前述のロレックスをすでに買って受け取った後でした。

同様の詐欺は、東京でも起きていて、風間ゆたか都議が、偽造マイナンバーカードで携帯電話が機種変更され、10万円以上の被害に遭っています。



導入後、時間の経過とともに新たな問題が発生し続ける「マイナンバーカード」。

### 偽カードで銀行口座を作られ1千400万円を騙し取られる

偽造マイナンバーカードで、自分名義の銀行口座を開かされてしまい、1千400万円を騙し取られた詐欺被害も出てきています。

被害者は北海道に住む70歳の女性。今年1月に、総務省の職員や警察官を名乗る詐欺師から「あなたの口座の個人情報が出たので、指示されるままにスマホのビデオ通話でマイナンバーカードを見せました。」

その後、詐欺師は、女性を騙して銀行口座に1千400万円を振り込ませました。これまでの詐欺と違うのは、女性がビデオ通話で見たマイナンバーカードをもとに、偽のカードをつくって女性になりすまして銀行口座を開いた形跡があること

とです。いま金融機関では、高齢者のオレオレ詐欺被害などを警戒して、多額の振り込みをチェックしたり、高齢者に警告を発したりしています。ですから、お金を振り込む前に多くの犯罪が阻止されています。振込先が本人名義の口座だと、金融機関には単なる資金移動にしか見えません。こうした、マイナンバーを悪用した新たな詐欺がまだまだ増えそうです。

### スマホの盗撮に用心

実際に、マイナンバー偽造の現場も押さえられています。昨年12月4日、警視庁国際犯罪対策課が、自宅でカードなどを偽造していた中国籍の女を逮捕。情報を印字する前の無地のカード約50枚が押収されました。カードには、本物そっくりのICチップのようなものも埋め込まれていました。

逮捕された女は、中国から届いたPCやプリンターを使用し、偽造に必要なデータをWeChat(ワイチャット)を通じて受け取っていたということから、国際的、組織的な犯罪の可能性が高いのではないのでしょうか。

携帯電話の新規契約は、マイナンバーと月々の料金支払い口座があればできますから、足がつかない偽マイナンバーで携帯電話が手に入れば、詐欺はますます横行するでしょう。

国は、「マイナンバーは顔写真入りのため、対面での悪用は困難」なりすましはできない」と大々的に宣伝し、身分証明書として持ち歩くことを奨励しています。

けれど、私は、危ないからやめた方がよいと思います。落としたり再発行に2ヶ月もかかるし、カードを出した時に背後から近づいてきた悪意ある人がこっそりスマホで盗撮したら、簡単に偽のカードを作られ、携帯電話を乗っ取られたり、本人名義の銀行口座を作られてしまいう可能性があるからです。

そういう意味では、どうしても必要な時以外は、絶対にカードは持ち歩かないほうがよいと思います。

# 「現行の健康保険証はなくさないで」 酒井菜摘・鈴木庸介両衆議院議員に署名提出

今年1月31日に公表された全国保険医団体連合会の「2023年10月以降のマイナ保険証トラブル調査(回答:8千672医療機関)」では、59.8%(5千188医療機関)でマイナ保険証やオンライン資格確認に関するトラブルが「あった」と回答した。デジタル庁が行ったマイナンバー情報総点検後もトラブルが続いており、トラブルは解消していない。それらを踏まえ、協会では「現行の健康保険証の存続を求める」請願署名に取り組んだところ、多数の署名が届いた。

紛失やトラブルに根強い不安  
署名と共に寄せられた声には、「マイナンバーカードは持ち歩きたくない。紛失した時のことを考えると気が重くなる」「施設に入所している母親は、マイナ保険証を作ることは困難です。高齢のため、健康保険証は必要です」など、マイナ保険証を利用・管理することへの不安が多くみられる。また、「トラブルのことを頻繁に聞くため、今の健康保険証を失くさないで欲しい」「マイナ保険証はトラブルが多くて嫌だ」など問題点を心配する声も多い。

実際に窓口業務を担っている医療従事者からの署名

「健康保険証の新規発行終了後は、マイナ保険証や資格確認書など9種類の資格確認方法が乱立し、持参する患者も混乱する。健康保険証を残せば1枚で済む」と述べ、現行の健康保険証の存続を求めた。要請に応じた国会議員からは、「医療DXには利点があるものの、その進め方には拙速なところがあり、さまざまな問題が起きているのではないか」など、請願内容に賛同する意見が寄せられた。集まった「現行の健康保険証の存続を求める」請願署名は、酒井菜摘衆議院議員(立憲)および鈴木庸介衆議院議員(立憲)に提出した。

※要請を行った国会議員は次の通り(※は秘書対応)  
▼衆議院:井上信治議員(自民)\*、土田慎議員(自民)\*、酒井菜摘議員(立憲)、鈴木庸介議員(立憲)

### 署名を国会議員に提出

これらの署名を携え、5月22日、坪田有史会長、早坂美都副会長が国会議員に緊急要請した。懇談では、「アンケートを行ったところ、マイナ保険証による資格確認でトラブルを経験した方が約6割いる。結局、健康保険証を持参したくないと適切に資格確認できない」

### 【お願い】

お手元に「現行の健康保険証を残してください」請願署名をお持ちの方は、協会までお送りください。お問い合わせは、協会運動本部まで(TEL 03-3205-2999)まで。



(写真左から)鈴木庸介議員、坪田有史会長、早坂美都副会長



(写真右)酒井菜摘議員